

「地域計画策定に向けて」

京都府 長岡京市農業委員会 各集落説明会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員	:	14人
○ 農地利用最適化推進委員	:	3人
○ 事務局職員	:	3人
○ 関係団体（名称のみ）		
○ 市町村行政との連携状況		



2 地区の特徴、状況、課題

- 長岡京市は京都と大阪の大消費市場を抱えた優位な立地条件の中、都市近郊農業を展開
- 水稻栽培に加え、「なす」や京のブランド産品「花菜」、特産の「たけのこ」の栽培が盛ん
- 農地の減少に伴って農家数も減少し、農家の後継者不足が課題

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 12月初旬に集落に対しての説明会を農業委員と農家組合長主体で実施。
- 説明会の中では、地域農業の現状や課題、都市近郊で農地を守り続けることに対する意見が多数聞かれた。地域計画に定めることで各農家に影響することもあることから、各農業関係者の意向を踏まえた、長岡京市の実態に即した地域計画を定めるべきとの意見が出た。

4 成果（地域計画の実行に向けた取組内容）

集落に参加意向のアンケートを行い、参加意向があったところのみ地域計画を策定する方向で進めている。
また、一部の集落では、一団で地域計画に参加し、担い手を見つけていく等の活用を見込んでいる。
次の担い手を探していることが明確になった農地について、関係機関と協力し、新規就農者、営農拡大者とのマッチングにつなげる取り組みが、今後非常に重要となる。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください